

第6学年国語科学習指導案

日時 平成26年10月2日(木) 公開授業2
児童 6年生 男3名 女8名 計11名
授業者 堀 籠 謙 友

単元名 心に訴える表現を見つけ賢治のメッセージカードをつくろう ○中心学習材「やまなし」(光村6年)

1 単元の見どころ

- ◎「やまなし」や他の宮沢賢治作品を読み、登場人物の相互関係や情景描写から感じたことや作品から受け取ったメッセージについて自分の考えをまとめることができる。〔読エ〕
- 作品から受け取ったメッセージをまとめるために、複数の宮沢賢治作品や資料「イーハトーヴの夢」を重ねて読むことができる。〔読カ〕

2 単元を貫く言語活動の特徴

本単元を貫く言語活動として、宮沢賢治作品の「登場人物の心情が伝わってくる情景描写」「選んだ情景描写から感じ取ったこと」「宮沢賢治作品から伝わってきたメッセージ」について、自分の言葉で「賢治のメッセージカード(感想カード)」にまとめる活動を位置付けた。賢治作品から伝わってきたメッセージをまとめるためには、作品中の情景描写に着目し、最も心に訴えかけてくる表現とその理由を考えながら繰り返し通読することと、複数の宮沢賢治作品と重ねて読み、共通するメッセージを考えることが必要である。したがって、この言語活動は、「優れた叙述について自分の考えをまとめること〔読エ〕」と「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと〔読カ〕」の力を高めることに適していると考えられる。

3 単元について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、6年生になって、「登場人物の関係をつかって物語を紹介しよう」(中心学習材「三つのお願い」)と「自分とつなげて読み、作品カードをつくろう」(中心学習材「カレーライス」)の学習をしてきた。「三つのお願い」では、物語を紹介するために、人物関係図を作る活動を通して、登場人物同士の会話や行動から人物像や人物相互の関係をとらえる学習を行ってきた。また、「カレーライス」では、作品カードを作るために、時・場所・人物・出来事など物語の設定をとらえたり、人物相互の関係に基づいた会話や行動から中心人物の心情の変化をとらえたりする学習を行ってきた。その結果、「読みの視点」に基づいて、物語の設定や人物像をとらえて読む力が少しずつ身に付いてきている。しかし、登場人物の相互関係に基づいて内面にある深い心情をとらえたり、表現の特徴に着目して場面の描写をとらえたりすることについては学習経験が十分ではないため、今後計画的に指導していく必要がある。

本単元の見どころに関わる「優れた叙述について自分の考えをまとめる〔読エ〕」については、5年2学期に「作品を自分なりにとらえ、朗読しよう」(中心学習材「大造じいさんとガン」)の学習において、朗読を通して情景描写と中心人物の心情をとらえる学習を行ってきた。この学習を通して、情景描写の意味について理解してきている。しかし、情景描写が登場人物の心情や場面の様子を色濃く映し出しているといった、表現の工夫に着目して読むことまでには至っていない。

(2) 学習材について

本単元「心に訴える表現を見つけ賢治のメッセージカードをつくろう」は、宮沢賢治の作品中に多く描かれる情景描写をもとに読み、複数の同作者の作品を重ねて読むことで宮沢賢治のメッセージについて考える活動を行う。

中心学習材「やまなし」は、小さな谷川の底を色や音、鉱物などを使って情景が美しく表現されている。また、「五月」と「十二月」という季節、そこに飛びこんでくる「かわせみ」と「やまなし」の様子をかいた目線で表現していることから、場面の展開やかいた目線の心情と情景を合わせて考え、情景描写をとらえていくことができると考える。

さらに、「やまなし」を中核として、複数の宮沢賢治作品を重ね読みすることにより、宮沢賢治作品に共通するメッセージについてイメージを膨らませ、自分の考えをもつことができると考える。

(3) 指導にあたって

第1次では、まず、資料「イーハトーヴの夢」と年表を基に、宮沢賢治が生きた時代背景と賢治の人物像をとらえさせたい。そして、言語活動のモデルを示すことにより、「宮沢賢治作品のメッセージを考えること」について見通しをもたせ、そのために「登場人物の相互関係に基づく行動や会話描写」「情景描写」に着目する必要があることを児童に実感させながら主体的に学習を進められるようにする。

第2次では、「やまなし」と他の宮沢賢治作品の2つの「賢治のメッセージカード」をつくる活動を通して学習を展開していく。まず、中心学習材「やまなし」においては、既習である時・場・人物・出来事を「読みの視点」にして、物語のあらすじや構成をとらえさせていく。次に、作品中で最も心に訴えかけてきた描写（行動や会話、情景描写）について、通読を繰り返しながら児童に主体的に見つけさせていく。その際、場面の展開や登場人物の心情に着目して見つけられるようにしていきたい。そして、見つけた描写について感じたことをまとめるとともに、宮沢賢治のメッセージを考えてカードにまとめさせていく。この「やまなし」で行った一連の手順を、並行読書している宮沢賢治作品で活用させながら、2枚目のメッセージカードをまとめさせていく。メッセージカードにまとめさせる際は、宮沢賢治の人物像や「やまなし」を読んで考えたこととを重ねて読んでいくようにさせたい。

第3次では、「やまなし」と重ねて読んだ作品とは別の作品をもう一つ選び、さらに重ねて読ませながら、3枚目のメッセージカードを自力でまとめさせていきたい。最後に、自分がまとめた3枚のメッセージカードをもとに、3つの作品を通して感じ取ったメッセージを自分の言葉でまとめさせていきたい。

毎時間の「ふりかえりの場」では、「友だちの考えでなるほどと思ったこと」と「並行読書している作品の読みに生かすこと」を観点にふりかえりをさせたい。また、ふりかえりのイメージが持てない児童に対しては、書き出しを示したり対話で引き出ししたりしながら、ふりかえりを記述できるように心がけたい。

4 本単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> 作者のメッセージをとらえるために、複数の本や資料を繰り返し読んだり、重ねて読んだりしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品中の人物の相互関係を基に描かれた行動や会話、色彩表現を用いた情景描写から、自分の感じたこととそこから受け取ったメッセージについてまとめている。〔読エ〕 作品から受け取ったメッセージ（共通点）を考えるために、複数の宮沢賢治作品を重ねて読んでいる。〔読カ〕 	<ul style="list-style-type: none"> 色彩表現や比喻などの表現の工夫に気付いている。〔伝国イ（ケ）〕

5 学習指導計画（全9時間）

	主な学習活動	読みの視点	評価 《 》 評価方法	
第1次 (2時間)	第1時	<ul style="list-style-type: none"> 資料「イーハトーヴの夢」と年表を読み、時代背景と宮沢賢治の行動や会話をもとに、人物像をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 設定（人物像） 	<p>読 宮沢賢治の生き方や考え方が分かる行動、会話をもとに、人物像をまとめている。</p> <p>[読カ] 《ワークシート》</p>
	第2時	<ul style="list-style-type: none"> モデルの作品カードをもとに単元の見通しをもち、学習計画を立てる。 宮沢賢治作品の並行読書を始める。(課外) 「やまなし」や並行読書作品の意味調べをする。(課外) 	<ul style="list-style-type: none"> 設定（相互関係） 言語表現（情景描写） 作品から受け取ったメッセージ 	<p>関 作品カードにまとめる内容を進んで考え、単元の見通しをもとうとしている。《発言》</p>
第2次 (5時間)	第3時	<ul style="list-style-type: none"> 「やまなし」を読み、物語のあらすじと構成をとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 設定（時・場・登場人物・出来事） 視点 	<p>読 設定や視点をもとに、物語のだいたいをとらえている。</p> <p>[読エ] 《ワークシート》</p>
	第4時	<ul style="list-style-type: none"> 「やまなし」を読み、心に訴えてくる描写を選んで、感じたことをカードにまとめる。 		<p>読 作品を何度も通読し、心に訴えかける描写を選んでいく。</p> <p>[読エ] 《発表・カード》</p>
	第5時 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 前時に選んだ描写から作品から受け取ったメッセージをカードにまとめる。 		<p>読 心に訴えかける描写について作品から受け取ったメッセージをまとめている。</p> <p>[読エ] 《発表・カード》</p>
	第6時	<ul style="list-style-type: none"> 並行読書してきた宮沢賢治作品の描写を選び、2枚目のカードにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 設定（相互関係） 言語表現（色彩表現） 作品から受け取ったメッセージ（作者が伝えたかったこと） 	<p>読 並行読書してきた作品の描写を選ぶために、「やまなし」と比べながら読んで選んでいる。[読カ] 《カード》</p>
	第7時	<ul style="list-style-type: none"> 並行読書してきた作品の描写から作品から受け取ったメッセージを2枚目のカードにまとめる。 		<p>読 並行読書してきた作品と「やまなし」を比べながら読み、自分が選んだ描写について感じたことと作者のメッセージをまとめている。</p> <p>[読カ] 《カード》</p>
第3次 (2時間)	第8時	<ul style="list-style-type: none"> 並行読書してきた宮沢賢治作品の中から、これまでと同じ観点で3枚目のカードをつくる。 		<p>読 これまで作ったカードの作品と比べながら、3枚目のカードをまとめている。</p> <p>[読カ] 《カード》</p>
	第9時	<ul style="list-style-type: none"> これまでに作った作品カードをもとに、感じ取ったメッセージをまとめる。 		<p>読 学習してきたことをもとに、カードにまとめている。</p> <p>[読エ] 《カード》</p>

6 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・自分が選んだかにかの親子の行動や会話、情景描写をもとに、作品から受け取ったメッセージを考え、カードにまとめることができる。〔読むエ〕

(2) 確かに読み取るための読みの視点

- ・かにかの親子の相互関係やかにかの親子の心情をうつつし出している色彩や音の表現をもとに読む。
【設定】【言語表現】

(3) 展開

段階	学習活動・学習内容	・指導上の留意点 〔 〕読みの視点
みとおす 3分	1 前時までの学習を想起する。 2 本時の学習課題を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時、2つの視点をもとに自分が選んだ描写について確かめる。 ・学習計画をもとに、本時は、自分が選んだわけと作品から受け取ったメッセージについて考える学習であることを確かめる。
	心にうったえかけてきた描写をもとに、作品のメッセージを考えよう。	
ふかめる 30分	3 学習課題を解決する。 (1) 自分が選んだ描写をもとに、作品のメッセージを考える。 (2) 考えを交流する。 ○自分の考えたメッセージを話すとともに、友達の考えを聞いて自分の考えを確かめる。 (3) メッセージをまとめる。 ○交流したことをもとに、メッセージをカードにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをもてるように、前時、児童が選んだ描写とそのわけを板書で整理する。 ・メッセージがはっきりと浮かんでこない児童には、作品を読み返すことと友達の選んだ描写に注目するようアドバイスする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 相互関係や色彩、音の表現をもとに読む。 【設定】【色彩表現】 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の考えと似ているところや自分の考えの参考になるところを見つけながら交流するようにさせる。 ・(1)ではっきりメッセージが浮かばなかった児童には、自分と同じ描写を選んでいる児童の考えに注目させ、そこから考えたメッセージを参考にするようにアドバイスする。
	評価規準 「やまなし」の描写をもとに、作品から受け取ったメッセージをまとめている。《カード》	
まとめる 12分	4 学習のふりかえりをする。 5 自分で選んだ作品を読書する。 6 次時の学習について確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「このあとの学習に生かしたいこと」「友だちの考えについて」についてふり返らせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 色や音に注目すると作品のことが分かってきて、メッセージを考えることができたから、今読んでいる本でも考えていきたい。○○さんの・・・という考えを聞いて、自分と選んだところは違ったけど、考えたメッセージが似ていると思った。《カード》 </div>

(4) 板書計画

やまなし

宮沢 賢治

④心にうったえかけてきた描写をもとに、作品のメッセージを考えよう。

○かへの親子の行動・会話から

児童の選んだ描写

選んだわけ

作品からのメッセージは・・・

○色や音を表す表現（情景描写）から

児童の選んだ描写

選んだわけ

⑤
・・・するとメッセージを考えることができ
た。
○○さんの・・・という考えを聞いて、
く。